

K 2025出展者諮問委員会による見解

第1部：市場・経済

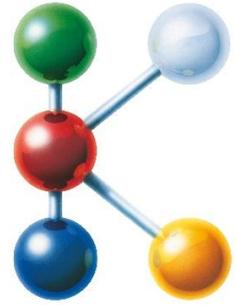
2025年10月8日から15日にかけて、K 2025がデュッセルドルフで開催される。プラスチック・ゴム業界における世界最大級のメッセは今回で第23回目を迎える。このメッセでは、グローバル業界が現在の極めて困難な時代にどう対応してゆくのか、その自信に満ちた答えが示されることになるだろう。これは、メッセのモットーである“The Power of Plastics! Green – Smart – Responsible”という言葉にも反映されている。同メッセの3つの基本テーマは「Shaping the circular economy ～サーキュラーエコノミー（循環型経済）～」、「Embracing digitalisation ～デジタル化推進～」、そして「Caring about people ～責任ある資源の活用・若手の将来性に注目～」である。

K 2025の中核となるメッセージ

プラスチック業界はここ数年、より持続可能な方向へと根本的な変化を続けてきた。ポリマー素材は、その多用途性とエネルギー効率により、80億人を超える世界人口の拡大に大きく貢献しており、重要な役割を担っている。今後は、これらの素材をさらに効率的に活用するアプリケーションを開発し、持続可能な開発を支える循環構造を構築することがますます重要になると考えられる。

同時に、人口増加による需要に起因する大量利用の波及効果や二次的影響に対する答えも必要とされている。そのため、業界の持続可能な循環型経済への移行は依然として最大の課題である。K 2025では、素材生産、機械・プラントエンジニアリング、加工といったさまざまな産業分野の企業が、基本テーマである「Shaping the circular economy ～サーキュラーエコノミー～」のもと、すでに成し遂げた成果と、将来に向けたさらなるソリューションを披露する。

ますますダイナミックに発展するデジタル制御および管理オプションの活用は、リサイクルを含むすべての産業工程をさらに効率化するための



The World's No. 1 Trade Fair
for Plastics and Rubber

8-15 OCTOBER 2025

Düsseldorf, Germany
k-online.com

M
Messe
Düsseldorf

Messe Düsseldorf GmbH
Postfach 10 10 06
40001 Düsseldorf
Messeplatz
40474 Düsseldorf
Deutschland

Telefon +49 211 4560 01
Telefax +49 211 4560 668
www.messe-duesseldorf.de
info@messe-duesseldorf.de

Geschäftsführung:
Wolfram N. Diener (Vorsitzender)
Marius Berlemann
Bernhard J. Stempfle
Vorsitzender des Aufsichtsrats:
Dr. Stephan Keller

Amtsgericht Düsseldorf HRB 63
USt-IdNr. DE 119 360 948
St.Nr. 105/5830/0663

Mitgliedschaften der
Messe Düsseldorf:

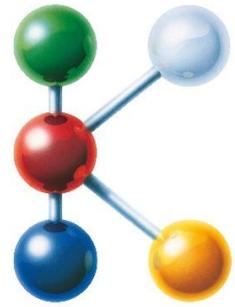
 The global
Association of the
Exhibition Industry

 Ausstellungs- und
Messe-Ausschuss der
Deutschen Wirtschaft

 FKM – Gesellschaft zur
Freiwilligen Kontrolle von
Messe- und Ausstellungszahlen

Öffentliche Verkehrsmittel:
U78, U79: Messe Ost/Stockumer Kirchstr.
Bus 722: Messe-Center/Verwaltung

決め手となる。そして、プラスチック業界は、第二の基本テーマである「Embracing digitalisation ～デジタル化推進～」でこのことを示している。とりわけ人工知能（AI）の活用は、現在の包括的な技術的テーマの一つとして、企業と研究機関の双方から強い関心を集めている。今後、数多くのエキサイティングなソリューションやスタートアップ企業の誕生が期待される。

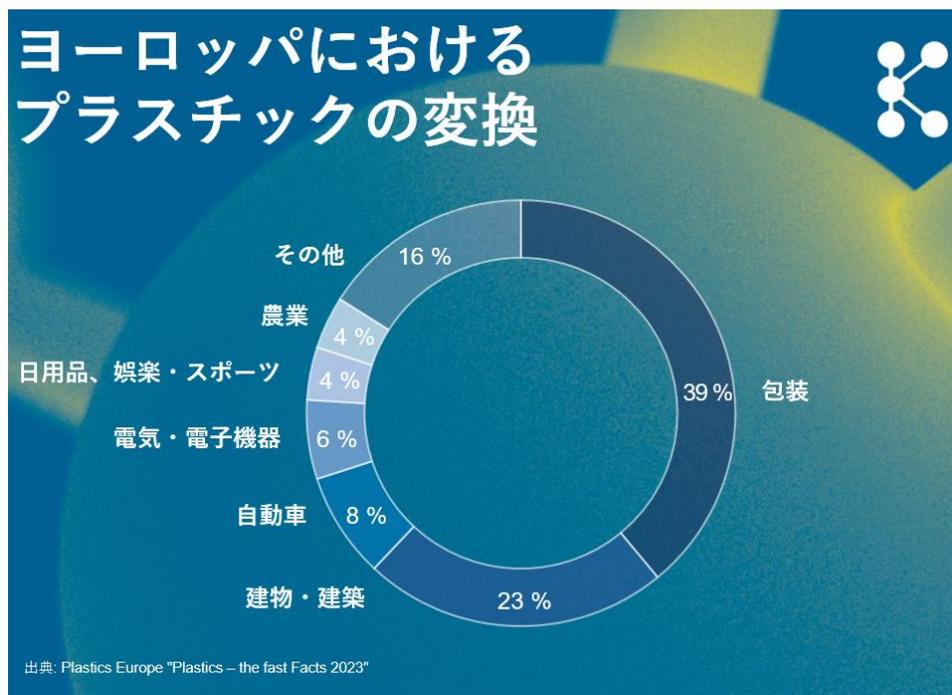


The World's No. 1 Trade Fair
for Plastics and Rubber

8-15 OCTOBER 2025

Düsseldorf, Germany
k-online.com

産業は人間社会にとって不可欠な存在である。これは、前世紀末以来、ポリマーが世界中で最も一般的に使用されている素材の一つであることを考えると、プラスチック産業に顕著に当てはまる。今やプラスチックはいたるところにある。包装や建築・土木用のソリューション、あらゆるタイプの車両、電子・電気機器や娯楽、さらには生命維持に欠かせない医療機器など、その用途は多岐にわたる。



これらの多用途のアプリケーションは常に人類に奉仕してきた。プラスチック業界は、K 2025の第三の基本テーマである「Caring about people ～責任ある資源の活用・若手の将来性に注目～」で明示されているように、このサービス面についてさらに認知度を向上させたいと考えている。しかし、最終的には、デジタル化がどれほど進んでも、人のためのテクノロジーは、結局は人の手によって作られるものである。この業界で働くことは技術面からも魅力的であり、さらに将来性も非常に高い。

この若い才能へのメッセージは、スローガンにも反映されている。なぜなら、プラスチック業界は他の多くの業界と同様に熟練労働者不足に悩まされているからである。

コロナ禍以降の変化

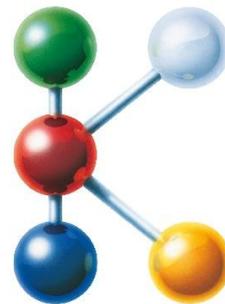
K 2022は、控えめながらも楽観的なムードに包まれていた。ウクライナ紛争の影が国際情勢の先行きに不安な影を落としていたものの、世界的なコロナ禍が収束した後の業界初の集まりには、新たな出発を予感させる明るい兆しが多く見られた。サプライチェーンは安定化の兆しを見せ始めた。欧州のプラスチック業界は、循環型経済への移行に対する明確なコミットメントを再確認した。米国や中国などの主要市場では、回復の兆しが顕著に現れ、持続可能なガバナンスへのアプローチが見られた。これに加えて、明日を担う市場の一つとしてインドの成長も確認された。

しかし、残念ながら期待は裏切られた。確かに、コロナ禍による停滞の後、サプライチェーンは回復したものの、世界中で多くの不安要素が散見されるため、その脆弱性は依然として高く、結果として非常に不安定な状態が続いている。また、ここ数年にわたってコロナ危機を乗り越えるために法外な支出が余儀なくされたことも相まって、世界の主要経済圏ではインフレ率が高まった。消費者の信頼水準が低下し、消費マインドの低下につながった。

この不確かさが経済に影響を及ぼし、景気の停滞や後退の兆候が散見される。計画の信頼性を回復するための政治的意思決定の欠如が、投資を妨げているケースもある。これはプラスチック業界にも影響を与えている。業界は、規制と市場の両面から受ける変革への圧力にさらされている。

拡大を続ける世界のプラスチック生産

このような状況にもかかわらず、コロナ危機後の世界のプラスチック生産量は成長軌道に復帰した。欧州プラスチック製品工業協会の最新統計



The World's No. 1 Trade Fair
for Plastics and Rubber

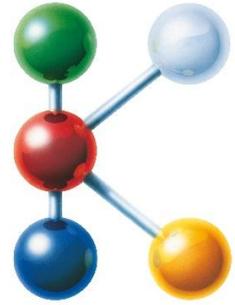
8-15 OCTOBER 2025

Düsseldorf, Germany
k-online.com

によると、2023年には化石資源である石油とガスを原料として約3億7,400万トンのプラスチックが生産された。2021年時点においてもこの数値はほぼ変わらず、3.6億トンであった。

この増加は、個々の工場の中長期計画規模と一致している。通常、ポリマー生産工場は、非常に大規模な精製コンビナートに組み込まれていることが多く、操業開始までには5年から10年を必要とする。

ここでは、操業者の事業上の考慮事項と並んで、国家経済の計画が重要な役割を担っている。化石資源を十分に、かつ低コストで入手できる国は、当然それを活用する。これが、90年代半ば以降、プラスチック生産のハブとしてアラブ地域が台頭した理由であり、また、過去10年間にわたって米国でいわゆる「シェール革命」が起き、同国での活動が大規模に復活した理由でもある。もう一つの理由は、この20年間で中国が前例のない成長を遂げた要因となった、国内市場の規模の大きさである。現在、同国の経済も停滞しているが、プラスチックの生産量は世界の3分の1を占めている。こうした例は、インドにおける計画や拡大の原動力にもなっており、今後数年間でますますその影響が明らかになると考えられる。一方で、国家間の利害が異なるため、2024年後半に韓国の釜山で行われたプラスチック汚染に関する法的拘束力のある文書に関する国連交渉（INC-5）でも見られたように、世界的な循環型経済への移行に関する交渉はしばしば困難を極める。



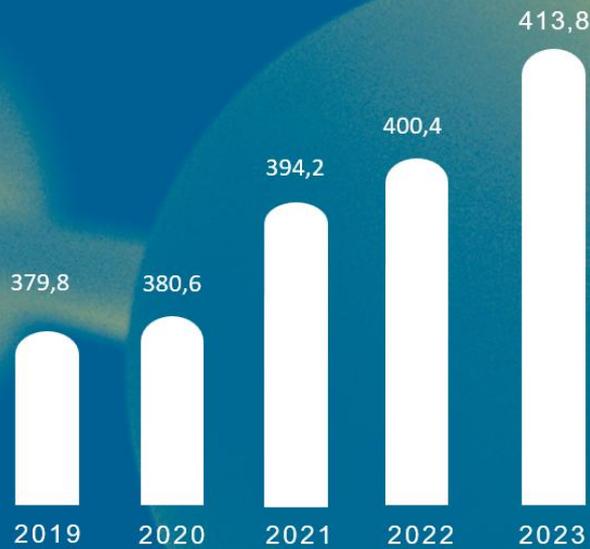
The World's No. 1 Trade Fair
for Plastics and Rubber

8-15 OCTOBER 2025

Düsseldorf, Germany

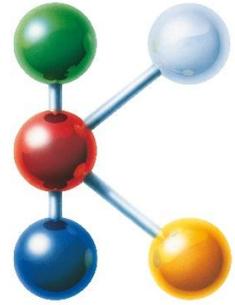
k-online.com

世界のプラスチック生産量*



出典: Plastics Europe "Plastics – the fast Facts 2024"

*単位: 百万トン



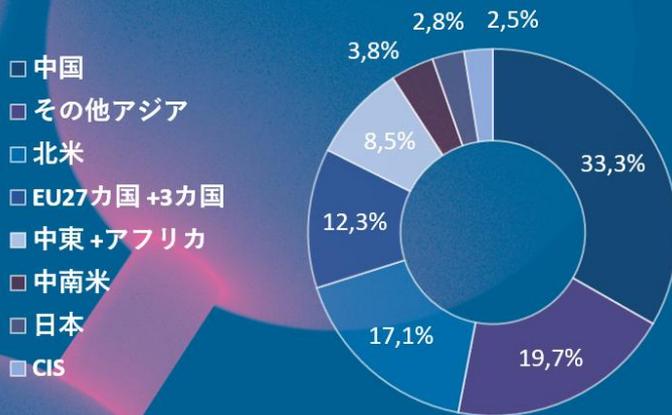
The World's No. 1 Trade Fair
for Plastics and Rubber

8-15 OCTOBER 2025

Düsseldorf, Germany

k-online.com

プラスチック工業の主要国・地域



出典: Plastics Europe "Plastics – the fast Facts 2024"

変化するヨーロッパのプラスチック生産

ヨーロッパにおける従来のプラスチック生産は、20年以上前から世界的な競争圧力の高まりを実感してきた。これに化石原料の不足と、2022年初頭からのウクライナ紛争によるエネルギーコストの大幅な上昇が加わった。その結果、国際競争力が低下し、景気低迷と相まって生産量の削

減に追い込まれた。2021年の5,100万トンと比較すると、化石資源を原料とするEUのプラスチック生産量は2023年には4,300万トンにまで落ち込んだ。実に16%以上の減少である。

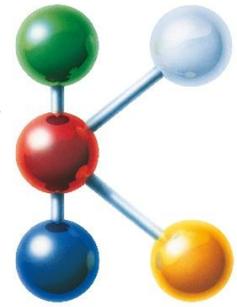
ヨーロッパはプラスチックの輸入額よりも輸出額の方が多いため、依然として貿易収支は黒字である。しかし、EUは2022年以降、重量ベースではプラスチックペレットの輸入量が輸出量を上回り、2021年以降はプラスチック製品の輸入量も輸出量を上回っている。2020年から2023年の間、プラスチックペレットの輸出量は25.4%減少した。

同時に、循環型経済に向けて同業界で進められている構造改革が徐々にその効果を発揮しつつある。2023年には世界全体で約3,650万トンの二次プラスチックが使用され、4.14億トン（化石由来および再生可能）の総消費量の約9%を占めるようになった。この分野では、ヨーロッパは現在でも依然として世界をリードしている。1,000万トン以上の二次原料が循環システムに還元された。これは、ヨーロッパ市場の総量5,400万トンの約19%に匹敵し、世界平均の2倍以上の水準である。

GRAFİK プラスチック生産の詳細な推移（バーインクルードリサイクル& バイオプラスチック（PE）/必要な場合はwdKのデータで補完）

基礎素材産業：循環型経済への支援

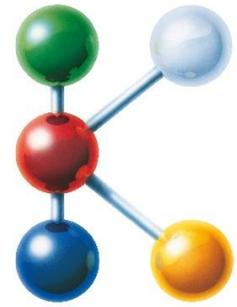
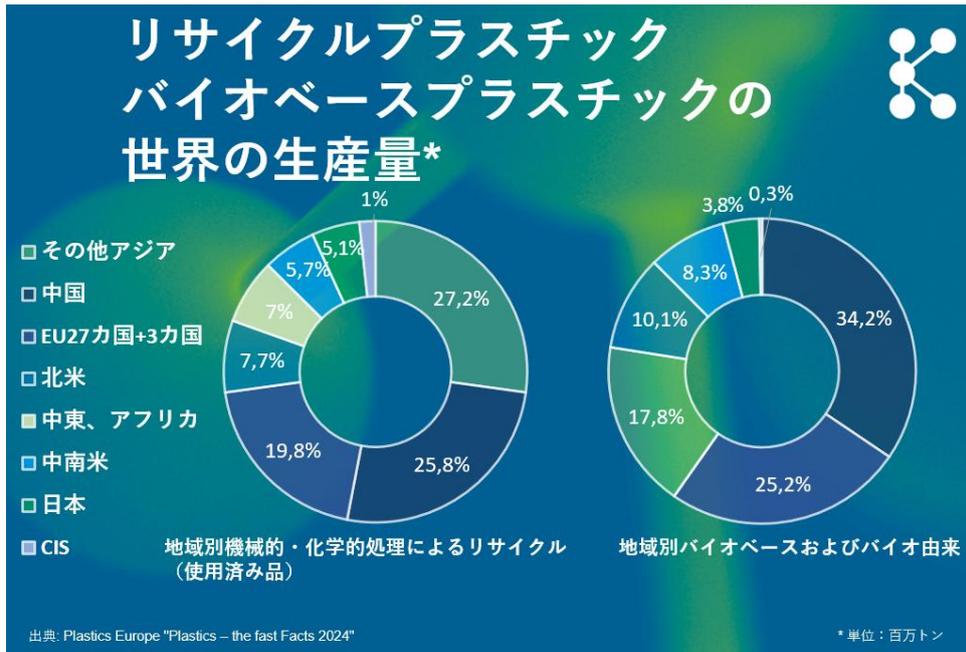
一方で、EUにおける二次プラスチックの生産量も2023年に長らくぶりに減少した。約700万トンに相当する、ほぼ8%の使用済みプラスチックが新たな製品に変換された。つまり、ヨーロッパの競争力の低下は、プラスチックの循環型社会への移行をも危うくしていると言える。プラスチックの循環型生産への産業活動や投資は、投資環境の悪化により、ヨーロッパから撤退する可能性が否めない。



The World's No. 1 Trade Fair
for Plastics and Rubber

8-15 OCTOBER 2025

Düsseldorf, Germany
k-online.com



The World's No. 1 Trade Fair
for Plastics and Rubber
8-15 OCTOBER 2025
Düsseldorf, Germany
k-online.com

それでもなお、ヨーロッパのプラスチック生産者は、プラスチックによる気候ニュートラルな循環型経済への移行を推進する決意を固めている。ただし、EUおよび加盟国が、ヨーロッパにおけるプラスチック生産とその変換を支援するという明確なシグナルを速やかに発信することを強く期待している。EUの「プラスチック変換ロードマップ」の目標は、成長率の上昇を前提として初めて達成できる。グリーンディールはインダストリアルディールとセットで推進すべきである。

ゴム業界もまた圧力を受けている

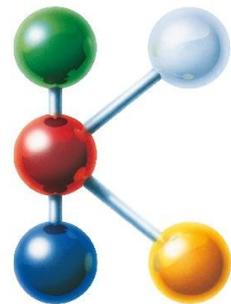
ゴム業界も、2023年と2024年の生産量減少、販売数量の縮小、従業員数の減少、投資の減少、設備稼働率の低下を報告している。ドイツゴム工業会(wdk)は、業界の多くの企業の収益状況は「限界まで逼迫している」と述べている。業界が直面している高コストを踏まえ、北米やアジアとの競争力は厳しい重圧にさらされているとの見解を示している。

世界的な市場の低迷、特に自動車産業の低迷は、タイヤ生産に特に大きな圧力をかけている。合成ゴムをベースとするものが大半を占める一般ゴム製品(GRG)の生産も、K 2025の6号館にある“Rubberstreet”で紹介されているが、少なからず打撃を受けている。事実、ゴム業界のもう一つの主要な販売市場である建設業界も現在低迷している。ゴム業界はEU

の政治家たちにこの状況を認識し、企業が他国に移転するのを防ぐために適切な措置を講じるよう求めている。

顧客重視のイノベーションに注力する機械メーカー

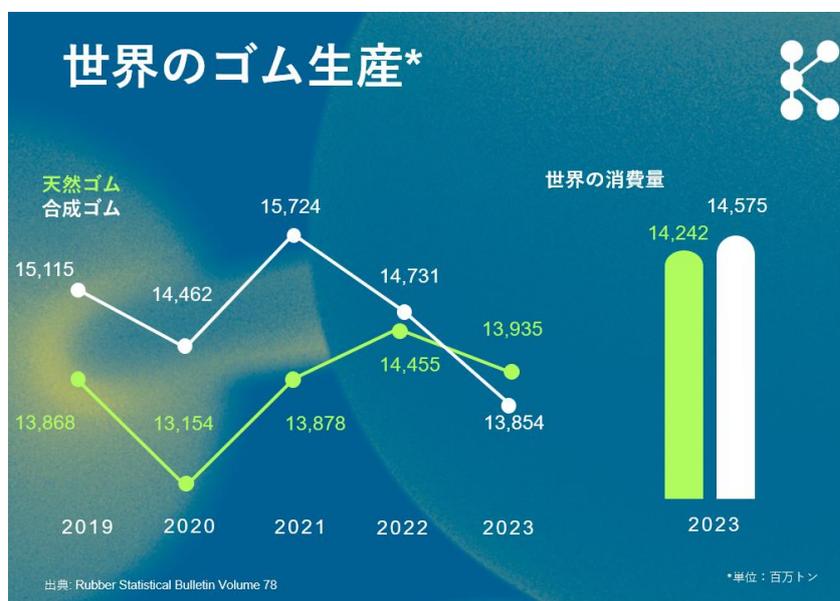
技術的に最先端を行くドイツやヨーロッパのプラスチックおよびゴム機械メーカーは、輸出志向が極めて強いため、現在、世界的な市場需要の減少の影響を受けている。特に注目すべきは、自動車産業の混乱と建設投資の低迷である。



The World's No. 1 Trade Fair
for Plastics and Rubber

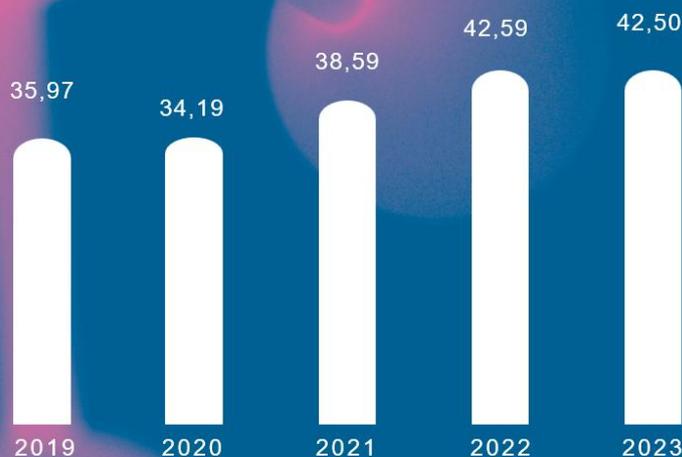
8-15 OCTOBER 2025

Düsseldorf, Germany
k-online.com



これを受けて、2021年から減少傾向にある受注水準は、2024年にはさらに落ち込んだ。2023年については、ドイツ機械工業連盟VDMAは、受注残高が多かったため、価格調整後の売上高が13%増加したと報じた。2023年の世界輸出の22%を占めるドイツは、技術主導の市場ポジションを維持し、日本を大きく引き離して中国に次ぐ第2位となった。

世界のプラスチック・ゴム機械の生産高



出典: VDMA

*単位: 10億ユーロ



The World's No. 1 Trade Fair
for Plastics and Rubber

8-15 OCTOBER 2025

Düsseldorf, Germany

k-online.com

プラスチック・ゴム機械



国別生産量 (2023年)

世界の輸出に占める割合 (2023年)



出典: VDMA

2024年については、機械メーカーは新規受注の減少により、売上高は約15%減少すると予想している。2025年半ばからは主要金利が低下するため、改善が期待される。しかし、VDMAのプラスチック・ゴム機械工業会会長でK 2025出展者諮問委員会会長のウルリッヒ・ライフエンホイザー氏は、この状況を単なる周期的な落ち込み以上のものと捉えている。

「私たちは自らの強みを活かし、革新的な力を活用し、新しいソリューションで現在の市場の問題に驚くほどの確に、ピンポイントで対応することが可能なのです」とK 2025に強い期待を寄せる。これは、生産者が今後も技術的データを基盤として、グローバル競争に勝ち残っていくことを意味する。

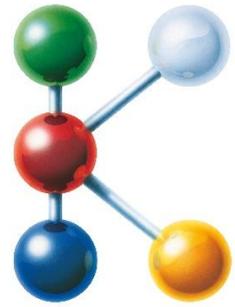
経済危機下におけるプラスチックの変換

プラスチックおよびゴム市場では、依然として変換が重要視されている。バリューチェーン全体を支えるために、エンドユーザーへの売上をここから生み出してゆく。世界的なインフレ率の高騰により、消費者が実質的に支出を減らすと、プラスチック加工業者の売上にも当然ながら影響が及ぶ。一部の例外を除き、2022年末以降、あるいはそれ以前から、消費者の購買力の低迷が北米、アジア、ヨーロッパの主要経済圏に影響を及ぼしている。それゆえ、プラスチック変換を行うほぼすべての産業分野が、この世界的な消費低迷の影響を受けている。

従来、比較的好調だった消費者向けのパッケージだが、ここ数年は世界最大のプラスチック消費分野として、プラスチック消費量のさらなる増加に寄与している。ヨーロッパでは、プラスチック包装は現在、やや厳しい状況にある。環境に優しい代替品として紙包装が推奨されるなど、見当違いの開発も見られる。もっとも、これは一時的な現象であるはずだ。世界的な投資の低迷により、あらゆる種類の産業用パッケージのメーカーは特に大きな打撃を受けている。だが、おそらくは景気回復に伴い、ここでも急速に回復が見込まれる。

建設資金の調達には、高いインフレ率とそれに伴う金利上昇により打撃を受け、特に建築分野では、需要が拡大していても、建設活動が大幅に停滞するケースも見られた。この市場に製品を供給し、プラスチックの用途の25%から30%を占めるプラスチック変換業者も、現在、同様の落ち込みを余儀なくされている。このような状況において、高いコストと多種多様な規制が、ドイツ市場を主要市場とする多くのヨーロッパ企業にさらなる問題を引き起こしている。企業は、この構造的問題を改善するための適切な政治的措置を待ち望んでいる。

現在、自動車産業は特に大きな打撃を受けている。数量ベースでは、自動車産業はプラスチックのユーザー産業としては3番目に大きく、市場の8%から10%を占めている。この技術的に要求度の高い比較的高価格な産業は、2018年以降、従来のエンジン駆動からe-モビリティへの転換が初期段階にあったため、コロナ禍以前からすでに苦境に立たされていた。



The World's No. 1 Trade Fair
for Plastics and Rubber

8-15 OCTOBER 2025

Düsseldorf, Germany

k-online.com

コロナ禍後の消費者および企業の購買力の低下により、売上は現在、ほとんどの部門で目標を大幅に下回っている。生産体制の切替え（e-モビリティ、リサイクル素材の利用）に伴う負担の大きい安全対策は、資金繰りの悪化により、失敗に終わる恐れがある。

これに対し、電気・電子、各種消費財、医療機器技術などの他のユーザー産業は、周期的な低迷を乗り越えた後、再び回復すると予想されている。

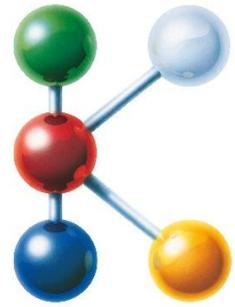
難局を乗り越える

プラスチック業界は、今日の大きな課題に立ち向かっている。日々の厳しい業務の中で、忘れてはならないことがある。長い年月をかけ築き上げられた仕組みを改変することは、そう容易なことではないということだ。とりわけ官僚的慣習に起因する困難な障害を克服し、従来の固定観念を改め、目標を絶えず再評価し、必要に応じて軌道修正しなければならない。そして、これは、スタート地点や進むべき方向がさまざまであり、多くの共通点があるにもかかわらず常に競合し合う国や地域間のグローバルな対話の中で実現される必要がある。

ヨーロッパは数年前、他のプラスチック生産地域との従来の関係が持続不可能になりつつあることを受け、新たな道を踏み出すことを決めた。

その一方で、素材生産、機械工学、変換、応用、リサイクルなど、広範な経験に基づく確固とした産業界の長い歴史が、幾度となく革新的な技術を生み出してきた。この力強さを忘れないことが重要なのだ。すでに進行中の移行において、この力強さがしばしば見られるようになってきている点は心強いことである。

この目標を達成するには、必要な軌道修正を洗い出し、明確化し、あらゆる階層と地域で実施する必要がある。その基礎となるのは、技術的および組織的な可能性に関する包括的な情報であり、また、すべての正当な利害関係を反映させることでもある。



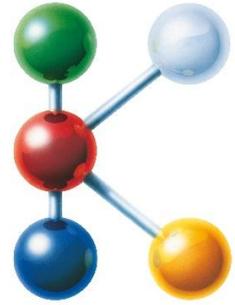
The World's No. 1 Trade Fair
for Plastics and Rubber

8-15 OCTOBER 2025

Düsseldorf, Germany

k-online.com

それゆえ、このような困難な時代にデュッセルドルフで開催される世界最大級のメッセを特に楽しみにしている。K 2025では技術の進歩が披露され、アドバイスやソリューションが提供され、市場に活力を与えるだろう。プラスチックがなければ、現在の地球上の人口と地球環境における人類の未来は、あり得ないということが明白であるからだ。



The World's No. 1 Trade Fair
for Plastics and Rubber

8-15 OCTOBER 2025

Düsseldorf, Germany

k-online.com